

## 製 品 安 全 デ ー タ シ ー ト

### 製造販売元情報

会 社 名 株式会社 オーデックコーポレーション  
住 所 東京都大田区東馬込 2-19-10  
担当部門 化成品課  
電 話 03-5718-7425  
F A X 03-5718-7426  
作 成 日 2005年12月20日  
更 新 日 2009年 1月10日（記載変更無し）

製 品 名 エアライン・ルブリケーター専用潤滑剤 型番：MAXA-LBL

### 物質の特定

|             |               |
|-------------|---------------|
| 単一製品、混合物の区別 | 単一製品          |
| 化学名         | 石油系炭化水素       |
| 成 分、含有量     | 潤滑油基油 100%    |
| C A S ナンバー  | 企業秘密なので記載できない |
| 国連分類および国連番号 | 分類基準に該当しない    |

### 危険有害性の分類

|       |                   |
|-------|-------------------|
| 分類の名称 | 分類基準に該当しない        |
| 危険性   | 可燃性があるので、火気に注意する。 |
| 有害性   | 知見なし              |
| 環境影響  | 知見なし              |

### 応急処置

|          |                                                              |
|----------|--------------------------------------------------------------|
| 目に入った場合  | 直ちに流水中で15分間以上洗眼し、医師の手当を受けること。                                |
| 皮膚に触れた場合 | 直ちに石鹼を使用して十分に水洗いすること。<br>汚染された衣服及び靴を脱ぐこと。<br>必要ならば医師の手当を受ける。 |
| 吸入した場合   | 新鮮な空気のある場所に移し、保温して安静を保つ。                                     |
| 飲み込んだ場合  | 誤って飲み込んだ場合、安静にして、直ちに医師の手当を受けること。口の中が汚染されている場合には、水で十分に洗う。     |

## 火災時の処置

|      |                                                                                                                                                                 |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 消火方法 | 1. 火もとへの燃焼源を断つ。<br>2. 初期の火災には粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。<br>3. 周囲の設備などに散水して冷却する。<br>4. 消火作業の際には風上から行い、必ず保護具を着用する。<br>5. 火災の発生場所周辺に関係者以外の立入りを禁止する。<br>消火に水ではなく、下記の消火剤を用いること。 |
| 消火剤  | 霧状の強化液、泡、粉末又は炭酸ガス消火剤が有効である。                                                                                                                                     |

## 漏出時の措置

|       |                    |
|-------|--------------------|
| 少量の場合 | ウエス、おが屑等に吸わせて回収する  |
| 多量の場合 | 盛土して流出を防ぎポンプ等で回収する |

## 取り扱い及び保管上の注意

|      |                                                                        |
|------|------------------------------------------------------------------------|
| 取り扱い | 換気および火気等への注意が必要。<br>静電気、衝撃火花などによる着火源の生じないように注意する。<br>必要に応じて保護具を着用すること。 |
| 保管   | 漏洩の防止。<br>直射日光を避け、換気のよい場所に保管、高温物を近づけない。異物混入のないこと。静電気対策を行うこと。           |
| その他  | 消防法など法令の定めるところに従う。                                                     |

## 暴露防止措置

|      |                          |                                            |
|------|--------------------------|--------------------------------------------|
| 管理濃度 | 設定されていない。                |                                            |
| 許容濃度 | 日本産業衛生学会勧告<br>A C G I 勧告 | 3 mg/m <sup>3</sup><br>5 mg/m <sup>3</sup> |
| 設備対策 | 換気装置                     | ミストが発生する場合                                 |
| 保護具  | 呼吸用保護具<br>保護メガネ<br>保護手袋  | 必要ならば防毒マスク<br>保護メガネ<br>耐油・防静電手袋            |

## 物理／化学的性質

|                  |         |
|------------------|---------|
| 外 観              | 淡黄色液体   |
| 比重又は、かさ比重濃度（15℃） | 0.870 g |
| 臭 い              | 僅かな臭気   |
| 蒸気圧              | データなし   |
| 水への溶解度           | 不溶      |
| 沸点又は範囲（℃）        | データなし   |
| 揮発分              | データなし   |
| その他              |         |

## 危険性情報

|                   |               |
|-------------------|---------------|
| 引火点               | 200℃＜         |
| 発火点               | 200～410℃      |
| 可燃性               | あり            |
| 発火性（自然発火性、水との反応性） | なし            |
| 酸化性               | なし            |
| 自己反応性、爆発性         | なし            |
| 粉じん爆発性            | なし            |
| 安定性、反応性           | 通常の取扱条件において安定 |
| その他               |               |

## 危険性情報（人についての症例、医学的情報を含む）

|                 |                                                              |
|-----------------|--------------------------------------------------------------|
| 皮膚腐食性           | なし                                                           |
| 刺激性（皮膚、目）       | 皮膚腐食性はなし。長期間または繰り返し皮膚や目に接触する場合、刺激性の恐れがある。<br>目にはいると軽い炎症を起こす。 |
| 感作性             | なし                                                           |
| 急性毒性（50％致死量を含む） | 経口毒性ラットLD50 5 g／kg 以上                                        |
| 慢性毒性            | データなし                                                        |
| がん原性            | データなし                                                        |
| 変異原性（微生物、染色体異常） | データなし                                                        |
| 生殖毒性            | データなし                                                        |
| 催奇形性            | データなし                                                        |

その他（水と反応して有害なガスを発生する等を含む）

飲み込むと下痢、嘔吐する可能性がある。

目に入ると炎症を起こす可能性がある。

皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。

ミストを吸入し気分が悪くなることもある。

水との反応性については有用な情報なし。

## 環境情報

|     |               |
|-----|---------------|
| 分解性 | 現在のところ有用な情報なし |
| 蓄積性 | 現在のところ有用な情報なし |
| 魚毒性 | 現在のところ有用な情報なし |

## 廃棄上の注意

1. 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、または都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
2. 投げ棄て禁止
3. 埋立処分を行う場合には、あらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃殻については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。
4. 燃焼する場合は、安全な場所で、かつ、燃焼または爆発によって他に危害または損害及ぼす恐れのない方法で行うと共に、見張り人をつける。

## 輸送上の注意

国内規制：下記、輸送に関する国内法規に該当するので、各法令の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

陸上：消防法（第4類 第4石油類）（液体）

労働安全衛生法 引火性の物

海上：船舶安全法 非危険物（個別運送およびばら積み運送において）

航空：航空法 非危険物

安全対策：1. 火気注意

2. 容器が著しく摩擦または動揺を起こさないように運搬する。

3. 指定数量以上の危険物を車両で運搬する場合は自治省令で定める標識を掲げる。

4. 第1類および第6類の危険物および高圧ガスとの混載をしない。

#### 適用法令

|           |                         |
|-----------|-------------------------|
| 消防法       | 危険物第4類第4石油類（非水溶性）       |
| 労働安全衛生法   | 引火性の物                   |
| 水質汚濁防止法   | 油分排出規制（5 mg / L 許容濃度）   |
| 下水道法      | 鉱油類排出規制（5 mg / L）       |
| 船舶安全法     | 非危険物（個別運送およびばら積み運送において） |
| P R T R 法 | 該当せず                    |

#### 参考文献

|               |                   |
|---------------|-------------------|
| 危険物データブック     | ： 消防庁警防研究会（昭和63年） |
| 産業中毒便覧        |                   |
| 13599の化学商品    | ： 化学工業日報社発行       |
| 化学品安全管理データブック | ： 化学工業日報社発行       |
| 適用法規総覧        | ： 化学工業日報社発行       |
| 化学便覧基礎編       | ： 日本化学会編          |

記載内容の問い合わせ先： 化成品課 TEL：03-5718-7425

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取り扱いをするための参考として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において個々の取り扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願い申し上げます。

本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。